

令和6年度 意見交換会（委員会） 報告書

委員会名	民生文教常任委員会	
開催日時	令和6年11月15日（金） 15:00～16:30	
開催場所	うちぶん 大会議室	
議員参加者	大原裕貴（委員長）、福井利道（副委員長）、山口みさえ、川島あゆみ、たかおか知子、西崎薫、西村まさと	
市民参加者	6人（受付人数）	
意見交換	出された意見	回答
	1. 資源ごみについて ① 神戸はプラ分別を行っている。神戸市との連携の前にプラ分別を積極的に実施すべきではないか。 ② 資源ごみの報奨費は自治会の財源である一方、市でも収集している。報奨制度ではなく市が一元化して実施し、各自治会に分配するようにしたらどうか。	① 収集後の保管場所の問題もあるので今すぐに進むわけではないが、芦屋市としては神戸市との連携の結果に関わらず、プラ分別を進めようとしている。 ② 参考とさせていただきます。
	2. 広域連携について ① 市が出している情報だけだとメリットが分からない。分からないうちに広域連携が進むのではないかと懸念がある。 ② 神戸市に丸投げになるのではないか。災害時の対応など、市にはもっと説明をしてほしい。	① 委員会において、もっと具体的な数値データを提出するよう求めている。 ② 委員会において、リスク対策を万全にするよう要望している。
	3. 分別について ① 生ごみの分別は市民にとって成果が分かりづらい。市民が納得できるメッセージを添えてくれたら実現も可能なのではないか。 ② 生ごみについて、消費期限ではなく賞味期限が切れた時点で捨てられていることが生ごみ増加の要因なのではないか。 ③ 芦屋方式を打ち出し、芦屋ブランドで全国に広げていくべきではないか。また、子どもたちの教育にもっとごみ問題を取り入れ、分別マナーを子どもたちから大人に波及させていくべきではないか。	① 生ごみの分別については、現時点では減量のための選択肢の一つ。いずれにしても、分かりやすいメッセージ、ビジョンを打ち出すのは必要だと考える。 ② フードロスを抑えることも重要であるため、フードドライブなどの取り組みをより活発にしていく必要があると考える。 ③ 参考にさせていただきます。

	4. その他 ① カラス対策のため、ごみステーションにBOXを設置したいが、環境課や道路課、警察などたらい回しにされる。窓口を一本化して、もっと効率的に実施できるようなことを考えてほしい。 ② 「たからばこ」について、物置小屋を置くだけだと景観に良くないので、景観に配慮した形状で配置ができればいい。	① 参考にさせていただきます。 ② 公道上ではなく、小学校の敷地内に設置できれば良いと考えるが、24 時間対応となると小学校との動線を分ける必要があり、防犯上の課題がある。
総括	雨が降りそうな天気だったこともあり、参加者人数は少なかった。しかし、参加者がそれぞれに課題や考えを持って参加してくださっていたこともあり、意見交換はかなり活発に行われた。 意見交換は、3 グループに分かれて実施した。いずれのグループにおいても沈黙となることはなく、活発なやりとりをされていたところを見ると、有意義な時間となったと考える。 頂いたご意見は、政策提言の折に参考とさせていただきたい。	
当日の写真		